

日銀、政策金利を0.25%に利上げ！

日銀は7月31日の金融政策決定会合で政策金利を4ヶ月ぶりに0.25%に引き上げると決めました。0.25%の金利は15年7ヶ月ぶりの金利水準となりました。安定的な物価上昇を受け、日本経済は「金利のある世界」に本格回帰してゆきます。

なぜ今利上げ？

日銀は、賃上げを伴った物価上昇が今後も続くとの自信を強め、金融正常化を進めることが可能と判断しました。3月にマイナス金利政策を解除したものの政策金利が0~0.1%の低い金利の日本と5%台の米国との金利差が意識された円安が急激に進んでました。その円安が原因で輸入物価が上昇し、今後更に物価が上振れするリスクが高かったことが日銀の背中を押す形となりました。

家計の影響は？

三菱UFJ銀行が7月31日に住宅ローン変動金利の指標となる短期プライレートを年1.475%から0.15%金利を上げ1.625%に引き上げました。また普通預金の金利を年0.02%から年0.10%に引き上げると発表しました。住宅ローンの金利は直近では約9割の人が変動金利を選択していると言われており、今回の利上げは住宅ローンを借りている家計にとっては負担が増す可能性があります。したがって家計への影響としては貯蓄の多い高齢世帯に有利、現役世帯に不利と言えます。

変動金利の仕組み

変動金利は毎年4月と10月に適用金利の見直しがあり、その3ヶ月後（来年1月）から金利変更が反映される金融機関が多いです。また変動金利には5年ルールがあり、変動金利の金利が上がっても返済額は5年間は一定となるケースが一般的です。したがって、返済額がすぐに上がるわけではありませんが、5年後のローン残高が思ったより減っていない等の問題が生じる可能性がありますので注意が必要です。

今後の金利の見通し

日銀は今回の利上げでもなお金利水準は低すぎると考えています。今後の見通しは予測困難ですが、今の雰囲気としては年内に再度利上げされる可能性があり、0.5%が次の金利の目安になりそうです（0.25%の金利アップ）今回の利上げで慌てて、変動金利を固定金利に見直しする必要はありませんが、物価高、円安、景気状況、株価を注視しながら金利のトレンドを注視しておく必要があります。

